



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

オマーン：カーブース国王が国民向けに声明を发出

11月5日、カーブース国王が国民向けに声明を发出する様子を、国営のオマーン・テレビが放送した。カーブース国王は、7月9日に私的訪問及び医療検査のためドイツへと出国して以降、メディアに一切露出せず、その健康状態が案じられていた（これまでの経緯については「[オマーン：カーブース国王の健康状態](#)」『中東かわら版』No.118（2014年8月25日）を参照）。宮内省からは、8月18日、10月2日に国王の健康状態は良好である旨の声明がそれぞれ发出されていたものの、国王本人の映像や音声は出ていなかった。

5日に放送された映像では、ナショナル・デー（11月18日。カーブース国王の誕生日）に際し、自分は国外に出ているものの、（1970年の即位以来進められてきた）ルネッサンスの44周年を祝する旨述べた他、（医療検査の）結果は良好であり、今後も医療プログラムを継続する必要があると述べた。

また、同日には、ファハド副首相、シハーブ国王顧問がドイツでカーブース国王と会談したことが写真付きで報じられた。

評価

カーブース国王は1970年の即位以来、オマーンを近代国家として発展させた立役者であるとして、広く国民からの支持を集めている。他方、権力は国王に集中しており、次期後継者も確定していないことから、国王が交代する際には、オマーン政治に大きな動揺が走るのではないかという危惧も強い。そのため、近年では国王の一部権限を政府や議会に分権する措置が進められてきた。カーブース国王は現在73歳であるが、健康状態については特に不安もなく、漸進的な改革が今後も進められていくことが期待されていた。

しかしながら、7月9日の出国時には、公式発表では医療検査のためとされたものの、4カ月近くも国を離れていることはこれまでになく、国外滞在中にラマダーンやイード・ル・フィットル、ルネッサンス・デー（カーブース国王の即位記念日）を迎えたことは異例なことであった。国内政治には大きな停滞が見られず、国王不在の直接的な影響は限定的だったものの、今後の政治情勢の帰趨や後継者の問題を巡って、国民の間では不安が高まっていた。今回の声明の发出では、国営テレビによって演説の様子が放送されたが、これはそのような不安を払拭するために行われたものであろう。また、ナショナル・デーに先立って映像が出されたのも、その時期に国王が不在であることを前もって通知することで、不安感の増大を抑制するためと見られる。

ドイツ滞在の目的は、あくまで医療検査とされており、何らかの治療や手術を行っているかどうかについては言及がなく、また、どのような健康不安・病気を抱えているかも明らかではない。映像を見る限りでは、容姿や声質、話し方に不自然なところはなく、病気による何らかの後遺症が発生している可能性は低いだらう。他方、演説では具体的な事項にはほとんど触れ

られておらず、映像が撮影された時期については若干の疑問も残る。特に、これは11月18日のナショナル・デーを祝するための声明であると報道では説明されているものの、声明の中には「ナショナル・デー」に言及する箇所はなく、7月23日のルネッサンス・デーを祝する声明と解釈することも不可能ではない。もっとも、カーブス国王による近年の演説は抽象的な表現が多用される傾向にある。また、欧州での私的休暇の際には、国王自身が派手なパフォーマンスを嫌うことから、国王の動静は国内メディアでは一切報じられてこなかった。そのため、今回の声明の内容および発出の形式は、従来のものから大きく逸脱するものではなく、現時点で公式発表に疑義を呈するだけの材料は見当たらない。また、同時にファハド副首相とシハーブ国王顧問との会談が報じられたことも、公式発表の信憑性を高めていると言えよう。

現段階では国王帰国の見通しは立っていないようであり、それが術後の安静のためなのか、更なる治療・手術を必要としているためなのかは不明であるが、一時的に高まった国王交代の可能性の不安については、ひとまず沈静化するものと見られる。

(村上研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799